

く大旗を引あけまひやくに勝利を得んや叶わぬ
江に五ヶ所と云者城よりし大勢集るる義光公
少将むお積の一乱に及ぶも千重ては覚悟され少
もさるのに保る五ヶ所一を以て大軍を引火を城にも
ちかこし急ぎ款来ぬる中に江を少引取くし作
業をこれし五ヶ所は由領り証むも引いと早速
引取中もまされと乍去之命をわろふになるよりと
いふは前常に在城をるお積の時為るるや危き時に
退きゆる侍の道とあるも實に名に代ある所詮は城
を以て討死し忠を死後に残さんとて中へ引くは色

いおありなりは方義光公少将しあつはれお量の老式然る
お勢をまをえんと谷相相様守飯田橋摩守留並忠左
衛門日野伊賀守に馬廻り数百人お急ぎ火合を
され名然る所は江山城守色款修理を以てて義長
五年庚子九月十二日畑谷の城へ押あ開の勢をなすなり
なる江に五ヶ所六ヶ所は伏兵してそより百騎計り引連
城外へ押出さ結引結を種を惜まも散々に討たり
先陣は瀧陣正をみ兼て又も多時た中に旗炮百に
打撃り城兵らの者十騎をかりお暴倒しに打落され
お兵さくか江に色にあらぬと右の尾端より前田義次部